

News 4

芸文短大 学科ニュース

美術科

▶ 県議会で「制作展」を開催しました

大分県議会の安部省祐議長からの提案により、本学美術科学生作品が6月7日から30日まで、県議会ロビーで「美術科制作展」として開催しました。制作展では、卒業制作買い取り作品として絵画3点と彫刻3点、それに今年度大分県警察に採用された警察官募集ポスターを含む16点が展示されました。



ちょうど、第2回定例会の会期中にもあたり、県議会の傍聴に来られた県民の方々が作品の前で足を止め、興味を示していました。なお、ロビーでは作品のほかに、芸文短大を紹介するパンフレットも置き、広報活動の一環にもなりました。

国際文化学科

▶ 最新のコールシステムを導入しました

国際文化学科では、4月、人文棟3階にある第一語学演習室に最新のコールシステム (Computer Assisted Language Learning) を導入しました。語学教材の会話のスピードを受講者が自分の能力に合わせて調整できたり、各自の席に備え付けられたパソコンを利用してインターネット上の生の情報を



素材としてそのまま授業の中で利用できたりと、旧来のシステムにはなかった様々な機能を用いた授業が可能となりました。

今後、このコールシステムを最大限に活用して、語学教育のより一層の充実をはかっていきたいと考えています。

音楽科

▶ 音楽科コンサートシリーズ 公開研究発表を開催しました

6月2日・23日、iichiko音の泉ホールで、専攻科2年生出演の公開研究発表を開催しました。当日は演奏の公開録画の形で行われました。この演奏録画は「大学評価・学位授与機構」に申請して試験に合格し、4年制大学と同等の学位を取得するための学修成果の提出に必要なものです。



また、9月22日は同ホールで「若さあふれるコンサート」、10月11日にはiichikoグランシアタで、「第46回定期演奏会」を開催します。

情報コミュニケーション学科

▶ 第80回あしなが学生募金活動に参加しました

今春、全国一斉に実施された、第80回あしなが学生募金活動。県内では4月24日・25日、5月1日・2日の4日間、大分市と別府市で行われ、本学からは過去最多の延べ150名の学生が参加しました。パルコ、トキハ前、大分駅などそれ



ぞれの持ち場に別かれ、募金の呼びかけやパンフレットの配布を行いました。「親を失った子ども達がひとりでも多く学業を継続できますように」という学生の呼びかけに、たくさんの人たちが足を止められ、参加した学生自身もこの活動の意味をあらためて理解できた4日間となりました。

学長コラム

中山 欽吾

「社会に出るとということ」

早いもので、芸文短大の学長に着任して1年半が経ちました。その間に2度の卒業式を経験し、着任当時いた学生諸君は、専攻科進学生を除き卒業していきました。短大の2年間は、あっという間に過ぎていくので、その間に社会に出る準備をしなければならないのは大変だなと思う一方で、芸文短大なら大丈夫だとも思っています。

今春の就職戦線は、年末までは未曾有の不調でした。しかし、年明け以来急カーブで挽回し、終わってみれば決定者数も決定率も昨年を上回ることができました。もちろん関係者みんなの懸命の進路開拓やアドバイス、皆さん自身の危機感があつたればこそですが、それだけだったのか、ここまで回復したのは「なしか? (なぜか)」という隠れた理由があつたのではないかと考えています。

まず求人側から見て、「採用する人はこんな人であって欲しい」といった期待と、学生側の「こういう仕事をしたい」という希望が、どうすればうまくマッチするのか考えて見ましょう。それはまた「社会に出る意味」を自らに問い直すことでもあります。

毎年の就職活動では、事務職の希望者が群を抜いているのが特徴的です。仕事として安定しているとか、デスクワークの方が楽だと思っているのかもしれませんが、求人側がそのような考えの人を採用したいかどうかは別の話です。それに単純な事務職のポストは今後とも減ることはあっても増えることはないでしょう。単純な仕事は不景気になる度に派遣やアルバイトに置き換わっていくからです。一方で、これから伸びていく仕事では、技術・技能を持っている人、様々な仕事に対応できる応用力や柔軟性を持っている人達の重要度が高まります。

事務だけしか希望しない人と、色々なことができてしかも事務もできる人のどちらが求人側の希望に沿うのか考えれば、後者を選んだ学生の希望が合致する可能性が高いのは誰でも理解できるでしょう。芸文短大は、在学時からどんどん社会に参画し、「理性」と「感性」の両方の力で物事を見るという、他では得難い教育機会が得られるのですから、この希望を叶える確率は大きいと断言しても良いと思います。そのことが社会に認められてきたのではないのでしょうか。



似顔絵 / 小野 智子 (専攻科 造形専攻1年)

美術科

講師 **松本 康史** 先生

今年度より「プロダクトデザイン分野」が新設され、担当として松本先生が赴任されました。松本先生は明るく、でも落ち着いていて、とてもフレンドリーな印象です。現在までに様々な分野の工業デザインを手掛けた経験があり、各デザインコンペティションでも多くの受賞経験を持っています。多方面で積極的に新しいデザインに挑戦している姿はエネルギーに満ちあふれ、僕らも頑張らねばと奮起させられます。松本先生の研究室に足を運ぶ機会が度々ありますが、分かりやすくて的確なアドバイスをもらい、それまで思い浮かばなかった新たな発想がひらめくたびに、デザインの面白さを再認識しています。

(専攻科造形専攻2年 山田 俊吾)



学生が語る素顔の教師! 新任教員紹介

美術科

助教 **西口 顕一** 先生

西口顕一先生は今年新任で入ってこれ、デザイン専攻ビジュアルデザイン分野を担当されています。私は専攻科の学生なのですが、西口先生からは造形研究1でwebデザインを教わっています。分かりやすい講義をしてもらって、学生からの人気も高い笑顔の素敵な先生です。制作に関する相談に行くとき親身になって聞いてもらい、適切なアドバイスを頂きます。デザインに関する話から趣味の出来事まで、どんな話題でも盛り上がり、話が弾んで長居することもしばしば……。まだ話したことのない学生は、ぜひ研究室に行ってみて欲しいです。(専攻科造形専攻1年 林田 晴菜)

